



写真：ロクショウグサレキン（撮影：令和元年10月23日）

「ロクショウグサレキン」

ロクショウグサレキン *Chlorociboria aeruginosa* ビョウタケ目 ビョウタケ科

染物や木工品に使用

秋も深まり、山は、きのこの季節到来です。ハイキングコース沿いでは、赤や黄色など、色とりどりのきのこを楽しむことができますが、なんと青いきのことまで見ることができません。

ロクショウグサレキン、銅がさびた「緑青」色に似ているため、漢字で「緑青腐菌」となったようです。自然界でこの蛍光色の青は珍しいため強い印象を受けます。湿度の高い林内の枯れ木から発生し、大きさは数mm。とても小さなきのこです。しかし、探すのは簡単で、このきのこが発生する枯れ木は、きのこと同じ「緑青色」になっています。その枯れ木を裏返すとびっしりと生えていることがあります。昔からこの色に魅せられた人が多かったのか、染め物に使われたり、家具やアクセサリーなどの木工品に加工されたりしてきました。湿潤な環境と火山が作り出す複雑な地形、豊かな動植物層により多くの菌類が育まれる霧島山。見上げれば紅葉、足元にはきのこ、秋の彩りを満喫しませんか。

（文）えびのエコミュージアムセンター